

(仮称)山科駅前遊びと学びの拠点複合施設に係る整備構想の検討状況について
(元京都市ラクト健康・文化館の有効活用)

元京都市ラクト健康・文化館については、あらゆる世代が集う遊びと学びの拠点として、山科図書館の移転・機能充実と、本市の東部地域初となる大型の子どもの屋内遊び場を中心に活用することとし、令和7年3月19日に、meetus（ミータス）山科-醍醐「みんなで創るまち PLAN」における具体策として発表いたしました。

今年度は、(仮称)山科駅前遊びと学びの拠点複合施設（以下「本施設」という。）の機能や概算事業費、民間活力の導入を含めた整備・運営スキームなどを関係局で検討し、整備構想としてとりまとめることとしており、現時点での考え方を御報告します。

(参考) これまでの経過

令和7年3月	市長記者会見 meetus 山科-醍醐「みんなで創るまち PLAN」を発表
4月	まちづくり委員会「元京都市ラクト健康・文化館の活用の方向性について」を報告
5月	整備構想の策定に係る補正予算を議決

1 整備構想の現時点での考え方

(1) 本施設のコンセプト

ア コンセプトの検討に当たって重視した視点

京都基本構想「第四章 わたしたち京都市民がめざすまち」をはじめ、新京都戦略「Ⅱ 目指すまちの姿」や meetus 山科-醍醐「みんなで創るまち PLAN」で描くまちの将来像などの実現に寄与する施設となることを重視しました（＜参考①＞参照）。

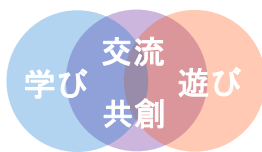
イ 施設の目指したい・ありたい姿

- ① 誰もが気軽に立ち寄れ、居心地が良いと感じる空間で、それぞれの学び方、遊び方、過ごし方ができる施設
- ② 多様な知に触れ、多彩な人々との交流・遊びを通じて、大人も子どもも、あらゆる人の学びたいがかなえられ、夢中になれることに出会える施設
- ③ 夢中と感動に溢れた人生、それぞれが望む生き方や暮らし方の実現に寄与する施設
- ④ 子どもとの交わり合いを通じて、地域の絆で子どもを見守り育てるまちづくりに寄与する施設
- ⑤ 育児相談等の子育て家庭支援により、子どもの健やかな成長を育む施設

ウ 本施設のコネプト

未来に向けて絶えず変化し続ける 唯一無二の交流×遊び×学び拠点

「夢中」と「感動」に溢れ、
学び続けられる



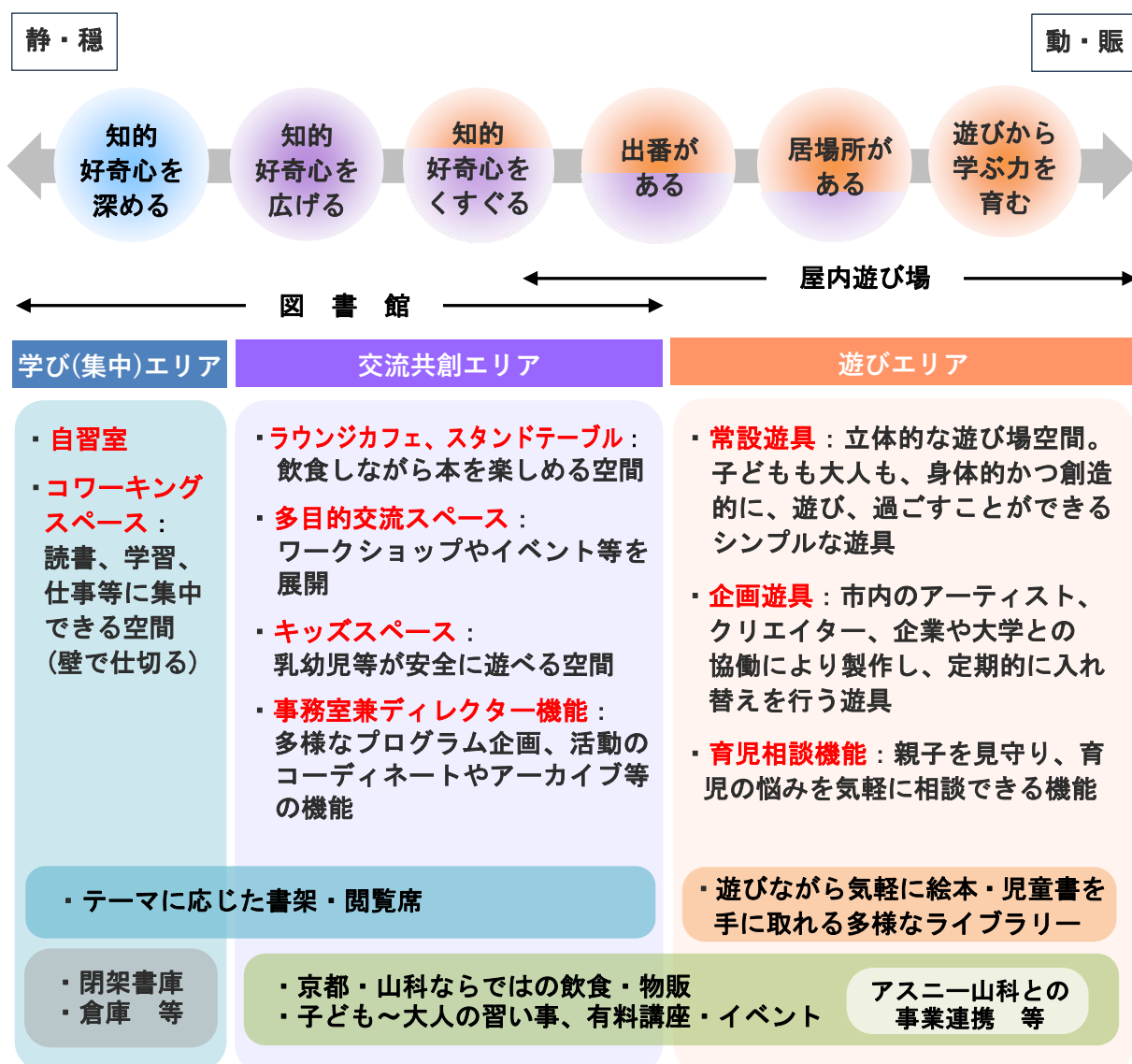
進取の気性と創意工夫に満ちた
「遊び心」を育む

多様で多彩な人々が交ざり合い、
ゆるやかにつながる

(2) 本施設の主な機能

図書館機能と屋内遊び場機能を一体的に整備・運営し、市民の利用シーンを静・穏から動・賑、動・賑から静・穏と、ゆるやかなグラデーションとなる機能配置となるよう、遊びと学びをつなぐ交流共創エリアを設けます。また、定期的に入れ替えを行う企画遊具や、交流共創エリアのレイアウトを随時見直すなど、絶えず変化し続ける空間づくりを目指します。

<機能配置イメージ>



＜施設イメージ＞

思いきり身体を動かせる遊び場



須賀川市「tette わいわいパーク」

高低差を活用した遊び場



掛川市「mirocco」

インクルーシブな遊び場



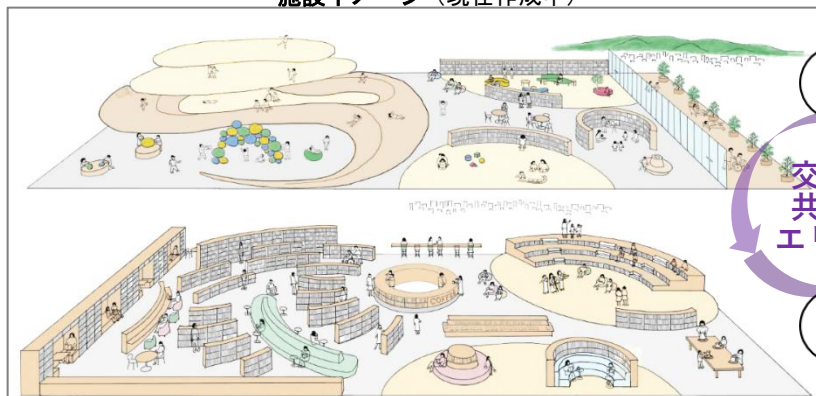
山形市「コパル」

企画遊具(クリエイティブな遊び場)



ロームシアター京都
オープニング事業 KYOTO EXPERIMENT
京都国際舞台芸術祭 2016 SPRING researchlight
「河童よ、ふたたび」撮影：衣笠名津美

施設イメージ（現在作成中）



遊び

交流・共創
エリア

学び

- ・企業や大学などと連携した企画
- ・多様でクリエイティブな学び・体験

ラウンジ カフェ（自主事業イメージ）



丸亀市「マルタス」

自習室・ワーキングスペース



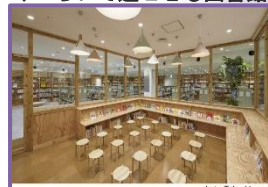
茨木市「おにくる」茨木市から引用

本棚でゆるやかに区切られた空間



松原市「読書の森」撮影：開拓弥

くつろいで過ごせる図書館



神戸市立名谷図書館

多様な学びの場となる図書館



菊池市中央図書館

注 施設イメージ

このイメージ図は、本施設のコンセプトや想定している機能を抽象化したイメージ図であり、具体的な機能や配置・規模（面積・高さ）等は、今後、具体化していく予定です。

(3) 本施設の位置付け及び整備・運営スキーム

ア 本施設の位置付け

本施設は、京都市図書館と子どもの屋内遊び場を中心とした公共施設として整備します。また、図書館機能を除くサービスの利用料については、施設を安定的に運営していく観点からは一定の利用料を御負担頂くことが望ましいと考えており、サービスを利用されない方との公平性の確保の観点なども含めて、今後、慎重に検討します。

イ 整備・運営スキーム

本施設の設計・整備・管理運営を効率的で効果的に行い、市民サービスの向上を図るためには、民間のノウハウを活用することが望ましく、また、書架・遊具を含めた施設機能の諸配置や各機能を連関させる内装デザイン等については、設計段階から、将来の管理運営を見据えたものとするのが望ましいと考えています。

また、事業者へのサウンディング調査では、設計・管理運営に加え、整備についても一体的に行うことが望ましいとの回答が多数を占める結果となりました。

以上を踏まえつつ、VFM*の簡易評価を行った結果は以下のとおりであり、現時点ではDBO方式（設計・整備・管理運営の一括発注方式）が経済性の点でも最も優れる方式となっていることから、本施設の整備・運営手法については、DBO方式を導入する予定です。

なお、運営期間は、事業者による安定的な運営と、中長期的な計画によるノウハウの蓄積・人材育成等を考慮して、15年間とする予定です。

＜VFM*の簡易評価＞

PFI方式	DBO方式	DO方式	DB方式
○	◎	○	○

D : Design (設計)
B : Build (整備)
O : Operate (運営)

※VFM 行政が設計・整備・運営を分離発注する手法（従来方式）と比べて財政負担見込額をどれだけ削減できるかを示す割合で、国が示す基準で算定（今後の導入可能性調査で数値を算定予定）

(4) 概算事業費

国が定める工事費算定の基準や、他都市の類似施設に係る面積当たりの整備費等をもとに推計した概算事業費は以下のとおりです。

引き続き、市債等の活用はもとより、民間事業者の提案・創意工夫等による本市の財政負担の縮減を検討します。

概算事業費：約49.6億円

（参考内訳）設計・改修費：約25.0億円

管理・運営費：約24.6億円（15年間の運営費）

注 現時点の想定で、今後の物価や人件費の変動等によって変更の可能性があります。

(5) 概算スケジュール

meetus 山科-醍醐「みんなで創るまち PLAN」におけるロードマップで示している令和12年度内の施設オープンを目指します。

令和 8年度	設計・整備・管理運営を一括で担う民間事業者の公募及び選定に向けた準備（要求水準書・実施方針の作成等）
令和 9年度	民間事業者の公募・選定、契約締結
令和10 ～11年度	設計・施設整備
令和12年度	施設の活用開始（予定）

注 現時点での想定。事業者公募や改修工事等の状況・内容によって、当該スケジュールは変更する可能性があります。

2 今後の取組

今後、民間活力導入可能性調査の精査を進めるとともに、これまでにいただいた市民や有識者、事業者の方々からの御意見も参考にしながら、今年度末までに整備構想としてとりまとめる予定です。

＜参 考①＞コンセプトの検討に当たって重視した視点

1 京都基本構想「第四章 わたしたち京都市民がめざすまち」

第一節 歴史と文化を介して人間性を恢復できるまち

第二節 自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち

第三節 自他の生をともに肯定し尊重し合えるまち

2 新京都戦略の「Ⅱ 目指すまちの姿」

すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜ける世界都市 京都」

(リーディングプロジェクト)

ひらく 公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト

つなぐ 地域の「絆」で支え合う子育て応援プロジェクト

3 meetus 山科－醍醐「みんなで創るまち PLAN」まちの将来像

まちの将来像として「多様な人々が住み、学び、つながることのできる文化・教育のまち“山科・醍醐”」を掲げています。

4 第3期山科区基本計画

地域の見守り、地域との関わりのなかで、安心して子育てでき、子ども・若者が将来の展望を持って成長できるまちづくりを進めることにより、次世代を担う子ども・若者や新婚世帯、子育て世帯が「山科区に住んでみたい」「山科区に住み続けたい」と実感できるまちを目指すこととしています。

5 京都市はぐくみプラン<2025-2029>における「こどもまんなか社会」づくり

目指すべきまちの姿を「こどもまんなか」のまち・京都とし、子ども・若者、子育てにやさしい「こどもまんなか社会」づくりに向けた具体的な施策として、「多様な遊び場の拡充」を掲げ、当該施設に、天候に左右されない全天候型の遊び場の確保に向けた検討を行うこととしています。

＜参 考②＞元ラクト健康・文化館の概要

1 所在地

京都市山科区竹鼻竹ノ街道町 91 番地
ラクトB 5、6階

2 延べ床面積

2,539.16 m²

(5階 1,367.07 m²、6階 1,172.09 m²)

3 供用開始時期

平成10年10月開業

